

箏の特徴を活かして「さくらさくら」を工夫し、 感謝の気持ちを表現しよう

本題材で育成する資質・能力

主体性・課題解決力・振り返り力（メタ認知）

日時 令和2年1月29日（水） 6校時
場所 音楽室
学年・組 第1学年A組（男子17名、女14名、計31名）

1 題材観

本題材は、A表現（2）ア「楽器の特徴をとらえ、基礎的な奏法を身に付けて演奏すること」、イ「声部の役割や全体の響きを感じ取り、表現を工夫しながら合わせて演奏すること」「楽器の音色や響きと奏法のかかわりについて理解すること」を指導するものである。

箏は、小学校の鑑賞教材でも取り上げられており、BGMなどで音を耳にする機会も多く、なじみの深い楽器である。誰でも音を出すことができるため取り組みやすい。

「さくら」は、箏曲の代表的な調子である平調子で作られており、単純ながらも美しい旋律で広く知られている。また、「さくら」という題からイメージを膨らませやすく、基本的な奏法を身に付けるとともに、旋律を飾る様々な奏法を取り入れながら表現を工夫するのに適していると考えられる。

一つ一つの音をしっかりと聴きながら演奏することを通して、「間」や音の余韻が創り出す雰囲気や味わいを感じ取ることができ、鑑賞の活動においても日本音楽の特徴をとらえ、良さを味わいながら聴くことにつながると考える。

2 生徒観

本学級生徒は、意欲的に学習活動に取り組んでおり、器楽による表現活動にも積極的に取り組んでいる。全体的に箏に対する興味関心は高い。一部の生徒は、小学校時にクラブ活動等で箏の演奏に取り組んだ経験があるが、基本的な奏法が十分身に付いているとはいえない。

日常的に日本の伝統的な音楽に触れる機会は少なく、楽器の名前や特徴などの知識は乏しい。尺八を題材とした学習の導入でフルートや篠笛と尺八の聴き比べを行った際に、始めは尺八の特徴について「音が低い」「音がかすれている」といった内容しかあげられなかった。音を耳にしたことはあっても、じっくり聴いた経験は少なく、日本の伝統音楽について漠然としたイメージしかもっていないことがうかがえる。

3 指導観

指導にあたっては、以下の工夫を行う。

（1）主体的・対話的で深い学びに向けた指導の工夫

- ・実際に演奏して試しながら考え、表現させる。
- ・個々で考えた表現を、グループのイメージに沿うように構成させる。

（2）振り返り場面の指導の工夫

- ・課題や「間」「余韻」といったキーワードを提示し、ねらいに沿った表現が考えられているか振り返る視点を明確にする。

（3）生徒の実態に合わせた指導の工夫

- ・学習の流れを提示し、学習の見通しをもたせる。
- ・グループで協働し「学び合い」を通して基本的な奏法を身に付けさせる。
- ・既習事項を提示し、考えるうえでの参考にさせる。

4 題材の目標と評価規準

＜題材の目標＞

- ・ 箏の基礎的な奏法を身に付け、「さくらさくら」にあう表現を創意工夫する。

【A 表現（2）イ，ウ】 （共通事項 旋律，リズム，音色）

＜評価規準＞

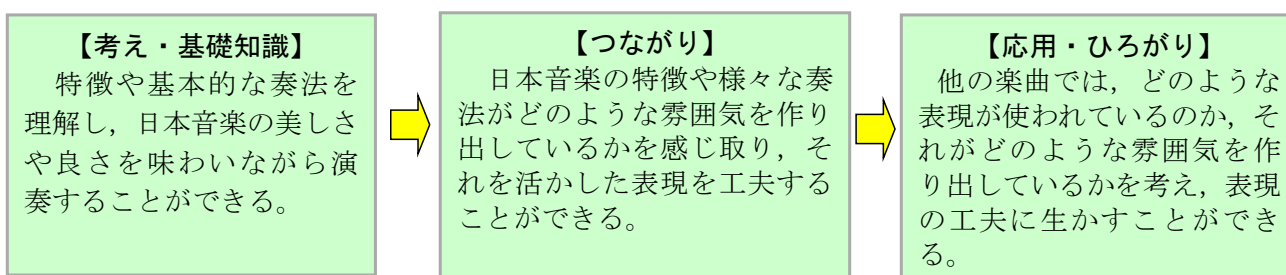
ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	ウ 音楽表現の技能
① 箏の音色や奏法に関心を持ち，基礎的な奏法で「さくらさくら」を演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。 ② 日本音楽の旋律や音色などの特徴に関心をもち，それを生かした音楽表現を工夫しながら演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。	① 日本音楽の旋律や音色，「間」などの特徴を知覚し，それらが生み出す雰囲気を感じている。 ② 表現したいイメージを持ち，構成や全体のまとまりをとらえた音楽表現を工夫し，どのように表現するかについて思いや意図を持っている。	① 箏の特徴をとらえた音楽表現をするために必要な，箏の基礎的な奏法，読譜の仕方などの技能を身に付けて演奏している。

5 指導と評価の計画

○本題材で身に付けさせたい資質・能力と評価規準

資質・能力	評価規準		
	I（基礎知識）	C（つながり）	E（応用）
主体性	・ 基本的な奏法にもとづいて器楽表現にとりこんでいる。	・ どの奏法がイメージに合うかを考えようとしている。	・ 仲間の考えや学んだことを参考にし，自己の表現力を高めようとしている。
課題解決力 （探究力）	・ よりよい表現を目指し，自分の思いを持って話し合いに参加し表現しようとしている。	・ どのように表現を工夫すればよいかについて，根拠にもとづいた自分の思いや意図をもち，それを表現しようとしている。	・ 全体のまとまりを意識し，どのように表現を工夫すればよいかを考え，表現することができる。
ふりかえり力 （メタ認知力）	・ 基本的な奏法や，演奏の際に意識すべきことがわかっていると実感している。	・ 様々な奏法や「間」などの日本音楽の特徴とイメージとの関連について理解していると実感している。	・ 様々な奏法や日本音楽の特徴が他の楽曲ではどのような表現として使われているかがわかっていると実感している。

【ICEモデル】



パフォーマンス課題

育てたい資質・能力	主体性，課題解決力（探究力），振り返り力（メタ認知力）
教科の評価規準	基本的な奏法を身に付け，曲にふさわしい表現を創意工夫する。

パフォーマンス課題のシナリオ

3年生が2月に卒業記念のお茶会を開催します。お茶会らしい雰囲気をつくるBGMを箏の演奏で作成し，感謝の気持ちを伝えましょう。そのために，日本の伝統文化を感じられるような，また「さくらさくら」のイメージにあうような演奏にするにはどのような表現を工夫すればよいかを考えながら，音楽を作り上げていきましょう。

（全5時間）

次	学習活動	生徒の思考の流れ	観点		評価	
			関	創	技	◇評価規準 ★資質・能力(評価方法)
1	<div style="background-color: yellow; display: inline-block; padding: 2px;">課題の設定</div> <div style="background-color: yellow; display: inline-block; padding: 2px;">情報収集①</div>	本時の目標：基本的な奏法を学び「さくら」を弾く				
	<p>○箏とはどのような楽器か教科書で確認する。</p> <p>○基本的な奏法と楽譜の見方について確認し，グループで練習する。</p> <p>○きれいな音を響かせるためには，どのようなことを意識すればよいかを考えながら演奏する。</p>	<p>・音を聞いたことがある。</p> <p>・日本らしい音色がきれいだな。</p> <p>・楽譜の中の文字は何を表しているのかな。</p> <p>・薬指の支えがあるとひきやすいな。</p> <p>・歌いながら弾くと覚えやすいかもしれない。</p> <p>・しっかり押すように弾くと大きな音が出せる。</p> <p>・だんだん早くなるのでよく聞いて落ち着いて弾こう。</p>	○	○	○	<p>◇★基本的な奏法にもとづいて演奏しようとしている。（行動観察）【主体性】</p> <p>○ ◇楽譜の見方を理解し，まわりとあわせて演奏している（行動観察・発表）</p>
2	<div style="background-color: yellow; display: inline-block; padding: 2px;">情報収集②</div>	本時の目標：様々な奏法を知り，箏の音色の特徴をつかむ。				
	<p>○箏の様々な奏法を知り，実際に演奏してみて，音色の特徴や変化をつかむ。</p> <p>○左手を使った奏法によって，どのように音色の変化があるかをつかむ。</p> <p>○箏は，余韻も聴かせる楽器であることをおさえる。</p>	<p>・流し爪は箏らしさが感じられる。</p> <p>・弾き方で音色を変えることができるんだな。</p> <p>・押し手や引き色を使うと音を出した後に変化させることができる。</p> <p>・鳴らした後の余韻もしっかり聞きながら弾こう。</p>	○	○	○	<p>◇箏の音色の特徴に関心を持ち，さまざまな奏法を試そうとしている。（行動観察）</p> <p>○ ◇様々な奏法による音色の特徴をつかみ，それらが創り出す雰囲気を感じ取っている。（行動観察，発表）</p> <p>◇★基本的な奏法や演奏のさいに意識することがわかっている。（行動観察）【振り返り力】</p>

3	情報収集③	本時の目標：桜のイメージにあうよう飾りの旋律をつくる。		
	○「さくら幻想」を鑑賞し、イメージをふくらませる。 ○グループごとに桜のイメージを決め、イメージにあった奏法を選ぶ。 ○実際に音を出しながら、どの奏法をどのように使うかを考える。	・たくさん音がいると華やかな感じがするな。 ・ゆっくり演奏するのも、落ち着いていい。 ・私たちは満開の桜を表現しよう。 ・華やかなイメージにするにはどの奏法があうかな。 ・華やかな感じがするから流し爪は使おう。 ・高い音を入れると明るい感じがすると思う。		○ ◇表現したいイメージを持ち、どの奏法があうか自分の考えを持っている。(行動観察、ワークシート) ◇★どのように表現を工夫すればよいかについて、根拠にもとづいた自分の思いや意図をもち、それを表現しようとしている。(行動観察、発表)【課題解決力】
4	まとめ・創造・表現①	本時の目標：お互いに評価しあい、よりよい表現を工夫する。		
	○グループごとで考えた工夫を取り入れて「さくらさくら」を練習する。 ○他グループの演奏を聴き、イメージに合うものになっているか評価し合う。 ○他グループからの評価や発表を参考に、よりよい表現にするためにどうするかを話し合う。	・しっかり息をあわせて弾こう。 ・華やかな感じがよく伝わってくる。 ・音が多すぎて旋律がよくわからないな。 ・もう少しゆっくりのほうが聞きやすいのでは？ ・旋律を大きく弾くようにしよう。 ・もう少しゆっくりめにしよう。		○ ◇表現したいイメージを表現するための奏法が身についている。(行動観察、発表) ○ ◇★どのように表現を工夫すればよいかについて、根拠にもとづいた自分の思いや意図をもち、それを表現している。(行動観察、発表)【課題解決力】
	まとめ・創造・表現②	本時の目標：表現を工夫して「さくらさくら」を演奏する。		
	○発表ができるように練習する。 ○演奏を録音し、イメージにあう表現ができたかを振り返る。	・落ち着いて弾こう。 ・華やかな感じは出すことができた。 ・難しかったけど、日本らしい演奏になった。		○ ◇表現したいイメージを表現するための奏法が身についている。(行動観察、発表)

予備的ルーブリック

尺度 (評点, レベル)	記述と表現
3 理想的	様々な奏法や「間」などの日本音楽の特徴がそのような雰囲気を作り出しているかを理解し、それを生かしてどのように工夫するか自分の考えを持って表現している。
2 合格	箏の特徴を理解し、「さくら」にふさわしい雰囲気を作り出すために、どのような奏法を用いて工夫するか自分の考えを持ち、表現している。
1 乗り越えさせたい実態	基本的な奏法を身に付け、周りとの息をあわせて「さくら」を演奏する。

6 本時の学習

(1) 本時の目標

お互いに評価し合い、よりよい表現を工夫する。

(2) 本時の評価規準

奏法と曲想との関りを理解し、どのように表現を工夫するか自分なりの考えを持って表現している。

(3) 準備物

箏、ホワイトボード、ワークシート

(4) 本時の展開

学習活動	指導上の留意事項 (◇) ◆「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手立て	評価規準 (評価方法)	資質・能力 (評価方法)
1 本時の課題を発見する。〔7分〕			
1 基本的な奏法を確認し、「さくらさくら」を弾く。	◇前時までの学習を振り返りながら、弾く時に意識することを発表させる。 ◆ペアで声をかけたり、楽譜を示したりしながらとりくませる。		
2 本時の目標を確認する。	◎ お互いに評価し合い、よりよい表現を工夫しよう		
2 情報を収集し、整理する。〔10分〕			
3 これまで考えた表現の工夫を確認し、弾けるように練習する。	・イメージに合う表現の工夫をつけて「さくらさくら」が弾けるように練習する。	・表現したいイメージを表現するための奏法が身についている。(行動観察、発表)	
3 新たな課題の解決に向けて議論する。〔23分〕			
4 考えた表現の工夫を他グループと交流する。	・表現したいイメージと工夫を発表・演奏し、評価しあう。 ◇ある程度考えがまとまったグループに代表として発表させる。 ◇「お茶会にふさわしい」「箏の特徴をいかしている」「イメージが伝わる」表現になっているかを評価のポイントとし、そのポイントに沿って評価させる。 ◆評価が難しい場合は、伝えたいイメージに近かった部分を示させる。	・表現したいイメージを持ち、構成や全体のまとまりを工夫してどのように演奏するかについて思いや意図を持っている。(行動観察、ワークシート)	◇★どのように表現を工夫すればよいかについて、根拠にもとづいた自分の思いや意図をもち、それを表現している。(行動観察、発表)【課題解決力】
5 交流した内容をふまえて、よりよい表現の工夫を考える。	・他グループの評価や発表を参考に話し合い、楽譜を完成させる。 ◇実際に音を出し、試しながら考えさせる。		

4 学習のまとめをし、本時を振り返る。〔10分〕		
8 交流後、どのように表現を工夫したかを意見交流する。	◇評価・交流をうけて、どのように表現を工夫するかを発表させる。	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>目標とする具体的な発表例 「はじめに考えていた弾き方だと華やかな感じは伝えることができただけ少し速かったので、落ち着いた感じが出るようにゆっくり弾くことにしました。また、音を揺らすと箏の特徴がよく感じられるので、取り入れることにしました。」</p> </div>	
9 本時の振り返りと自己評価を書く。	◇キーワード（イメージや雰囲気にあう表現）を入れて振り返りを書かせる。	